

1. サケハウ SAKEHAW

サケハウ(節歌^{ふしうた}/酒声)

タプカラ TAPKAR

踏舞

酒宴もたけなわになり、酒がまわって気分がよくなったころ、男性が重く低い声で歌い始める。これを **sakehaw** サケハウ という。

sakehaw サケハウ の **haw** ハウ は《声》、**sake** サケ は、**sáke**《節》かもしれない。アクセントの点ではこれとは合わず、酒を意味する **sake** と合うので、『アイヌ語音声資料5』では《酒・声》と解釈したが、サダモ(平賀サダ)さんは、この種の歌とは別に、女性が鼻歌を歌っていたのを聞いたときにこの語で言い、その意味を「節の歌」だと言った。この種の歌も、本来その意味だった可能性が強い。

歌詞はない。ごく低い声をふるわせるようにして、間々に高い声を入れ、ときには裏声もまぜながら響かせて歌う。この例では、だいたい u ウ の種類の母音が多く、ときに i イ が入り、また ha ハ、ba バ、bu ブ、b フのような音も入る。

座ったままでこの サケハウ を歌っていてから、そのうちに立ち上がって、同じ歌を歌い続けながら舞い始める。この舞は **tapkar** タプカラ《踏舞》という。

tapkar タプカラ は男性が舞う。**tap** タプ は擬音であろう。**kar** カラ《する》がついて動詞になり、その舞を舞うことを言い、それがその舞の名称になっている。

てのひらを上に向け、両腕を斜め前に左右に広げて、上向きのゆるい弧の形にしてかざし、少し動かしながら、一歩一歩ゆっくり踏みしめて歩く。

ときには、女性の一人が、自分の袖口を持ちながら両腕を広げ、その男性の後方について進む。男性の歌うサケハウ に合わせて、ときどき細い高い声で「カーチャー」と歌う。これをその男性に **etapkar** エタプカラ するといい、また **iyetapkar** イイエタプカラ《人に合わ

せて踏舞を舞う」ともいう。

ここに収められている録音は、その一つの例である。

sakehaw サケハウ、tapkar タフカラについて、他の演じ方や、名称、地方差、起源、その他くわしいことが『知里真志保著作集 2』(p.48-63)に述べられている。

なお、伝承の中で、人間の姿になって地上で暮らした神(男神でも女神でも)が天に帰るときは、この tapkar タフカラ を舞っているうちに鳥の姿になって、空高く昇って行く。「下」の(14)の神謡にそのシーンが出てくる。

サケハウ
(1) SAKEHAW

サケハウ(節歌^{みしうた}/酒声)

ゼンノスケ
Zennosuke

二谷善之助((二風谷))

タフカラ
TAPKAR 踏舞

ゼンノスケ
Zennosuke
コキン
Kokin

二谷善之助((二風谷))

貝沢こきん((二風谷))

ゼンノスケ (サケハウ)
Zennosuke: (sakehaw)

善之助：(サケハウを歌う。)

(タフカラ)
(tapkar)
コキン カチヨ
Kokin : ka-co

(立ち上がって踏舞を舞う。)

こきん：カーチヨー